

1 開会
(1)市長挨拶

呉市長

会議の開催にあたって、私の気持ちを皆さんに申し上げたいと思います。
この幸町地区は、呉市にとって本当に大事な、日本にとっても世界にとっても、またとない地区であると思っています。

線路（JR呉線）から海側は、元々、海軍の土地でしたが、特にこの幸町地区は、入船山記念館では歴代の鎮守府司令長官が住んでいます。その中には、総理大臣になった方や、ワシントン軍縮条約で世界を引っ張った方、終戦時の玉音放送の責任者である鈴木貫太郎元首相も住んでいました。

このように、入船山記念館は日本の歴史に大きく関わった場所であると同時に、世界的にも国際関係に大きな役割を果たした方が住んでいた場所であると思っています。

それから、青山クラブは元々、下士官兵が利用されていた施設で、戦地に行く前あるいは船に乗る際に、前の日に家族が来て、ここでお別れした場所です。

戦後すぐには、英連邦軍が使用し、現在でも「CANTEENS（キャンティーン）：酒保」という文字が残っており、オーストラリア軍や英連邦軍の人たちが、のんびり過ごすための売店もあったところです。

その他、非常に大きな建物ですので、市民の皆さまがいろんな形で利用し、思い出がたくさん残っている場所ですし、下士官の方々のいろんな気持ちが残っているところです。

美術館についても、昔、長官が馬車で通った道の入り口が、現在の美術館の入り口になっています。

そのほか、（美術館から）道を隔てると、（映画「この世界の片隅に」の主人公である）“すずさん”のお父さんが入院していた海軍病院は、現在、国立病院（国立病院機構呉医療センター）になっています。練兵場だった場所も、今では市民の広場となっています。

呉教育隊も、非常に美しい緑の場所であり、海兵団をはじめとした海軍の歴史が刻まれた場所です。

建築家の専門家の方々は、たいしたものでは無いと言われるかもしれませんが、これまでに使われてきた人たちの思いがそこにはこもっています。世界的な遺産だと思っています。

遺産というのは、日本遺産もそうですが、そこでどういうことが起こってきたかという物語を知ることができるかが非常に大事であると思っています。

この有識者会議は、建築関係の方々も多く入っていただいています。建物自体の状況を踏まえた技術的な整理をしていただく機会もあると思いますが、最初から、「これはいらない」という議論ではなく、「建物を直すためにこれだけお金かかる」というような、検討材料を用意していただいて、判断はそれから行います。

歴史や地域に対する思いを持っていただいている、海軍の歴史を受け継いで

<p>呉市長</p>	<p>いる、そういった方々を全体の中で照らしていただくように、大変失礼な言い方ですけど、建築関係の方が出過ぎないようにお願いをしておきます。</p> <p>建物を改修するためには、お金がこれだけかかるよ、例えば、建物の耐震についても、こういった工法を使えば、新しい工法もできていますから、むしろ提案をしていただくよう、お願いします。</p> <p>この地区を、芸術・文化も含めて再整備していくため、2年をかけて、呉市民、日本全国、世界のための素晴らしい場所とするための方針をご提案いただきたいと思います。</p>
-------------------	--

(2) 委員紹介

<p>事務局</p>	<p>それでは、当会議の委員の皆さまをご紹介させていただきたいと思いますが、時間等の都合もございますので、お手元の資料1：委員名簿並びに配席表でのご紹介に替えさせていただきます。ご了承ください。</p> <p>なお本日は、岡委員、戸高委員がオンラインでの参加でございます。また、福永委員がご欠席となっております。</p>
-------------------	--

2 幸町地区総合整備検討有識者会議設置要綱の説明・確認

<p>事務局</p>	<p>本日の会議はお配りしております次第のとおり進めてまいります。</p> <p>なお、会議の終了は20時を予定しております。</p> <p>本日は、第1回目の会議でございますので、座長並びに副座長の選任を行うこととしております。それまでの間は事務局にて進行いたします。事務局は、呉市企画部企画課でございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、次第の方にお進みいただきまして、次第2の会議設置要綱について、ご確認いただきたいと思います。</p> <p>委員の皆さまに、会議の設置要綱をお配りしております。資料2をご覧ください。</p> <p>要綱は、会議の設置目的、協議事項、座長・副座長の選任、会議の進行、会議の公開に関する内容などとなっております。また、委員の皆さまの名簿も記載しております。</p> <p>要綱の内容、氏名・所属に関しまして、ご確認いただきますようお願いいたします。</p>
-------------------	---

3 座長、副座長の選出

<p>事務局</p>	<p>続きまして、次第3の座長及び副座長の選任を行いたいと思います。</p> <p>先ほど確認いただきました、設置要綱第3条3項に基づきまして、座長は委員の互選により選出することとなっておりますが、委員の皆さまからご推薦がございましたら、ご意見をお願いいたします。</p> <p>(小野委員 挙手)</p>
-------------------	---

事務局	小野委員。
小野委員	<p>小野です。</p> <p>田中委員を推薦させていただきます。</p> <p>数年に渡り、地元のまちづくり組織と共同で中央公園での実証実験やまちでのニーズ調査なども行われており、実際にまちのこともよく知られていると思います。</p> <p>私から推薦させていただきます。</p>
事務局	<p>ただいま、小野委員より、田中委員のご推薦がございましたが、他の委員の皆さまはいかがでしょう。ご意見はございませんでしょうか。</p> <p>(委員から賛成の声あり)</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にご意見が無いようですので、ただいま小野委員よりご推薦がありました、田中委員を座長に就任していただきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
委員	(拍手)
事務局	<p>ご異議がないようですので、委員の互選により田中委員を座長に選任いたします。田中委員は、お席へお移りください。</p> <p>引き続きまして、副座長の選任を行いたいと思います。</p> <p>設置要綱第3条5項により、副座長は座長の指名により定めることとされておりまして、座長の田中委員よりご指名をお願いいたします。</p>
田中座長	<p>横山委員にお願いしたいと思います。</p> <p>呉市立美術館の館長を務められており、この地区のことにも精通されていると思いますので、横山委員へご就任いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>ただいま田中座長よりご指名がありました、横山委員を副座長に選任したいと思います。</p> <p>横山委員は、副座長のお席へお移りください。</p>
委員	(拍手)
事務局	<p>座長並びに副座長が決定いたしましたので、ここで、お二方にご挨拶をいただきたいと思います。</p> <p>はじめに、座長に就任されました、田中委員よりお願いいたします。</p>
田中座長	<p>改めまして、田中です。よろしくお願いたします。</p> <p>前回、現地を見させていただきましたが、この場所の物語、ストーリーを含めて、非常に魅力的と言うか、力のある場所だなと思いました。</p>

<p>田中座長</p>	<p>ただ、一方で、いろんな課題もあろうかと思えます。今回の会議には、様々な分野の有識者の方にご出席いただいておりますので、多面的な視点からご意見をいただきながら、最終的には、先ほど2年とおっしゃいましたが、最適に近いものを提案できたらと考えておりますので、皆さまよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして、副座長に就任されました、横山委員よりお願いいたします。</p>
<p>横山副座長</p>	<p>改めまして、美術館長の横山と申します。どうぞよろしく願いいたします。 1984年から学芸畑を歩んで参りましたので、将来の呉市民のために働けることを喜びとすると同時に、まさに今、現場におりますけれども、いろんな問題がありますので、みなさまのお力を借りて、より良いプランができるように尽力したいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、これより議事に移りますが、議事の内容につきましては、議事録を作成し、後日ホームページに掲載いたします。 また、議事録には、発言者のお名前を記載いたしますので、ご了承いただきますようお願いいたします。 ここからの議事進行は、座長の田中委員へお願いいたします。</p>

**4 議事
議題(1) 有識者会議のスケジュールについて**

<p>田中座長</p>	<p>よろしく願いいたします。 資料の1ページ目の次第の内容のところをご確認いただければと思いますが、次第4のところ、5つ議題がございます。 本日は、第1回目でございますので、当会議のスケジュールに関して共有を行いたいと思えます。事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、会議スケジュールについてご説明いたしますので、資料3-1をご覧ください。 現時点での大まかなスケジュール案を作成しております。 本有識者会議では、2か年にわたり、幸町地区の総合整備について検討を行っていきたいと考えております。 まず、令和5年度、検討内容としましては、幸町地区全体のコンセプト、青山クラブをはじめとする各施設の在り方、新たに追加する機能や回遊性についての検討を考えております。 会議の回数といたしましては、本日の第1回会議を皮切りに、概ね2ヶ月に1回のペースで、5回程度を予定しております。また、会議での検討状況を踏まえ、2回程度、本総合整備の参考となる、先進地視察を行ってはどうかと考えております。また、第4回会議において中間とりまとめを行い、市議会に中間報告を行いたいと考えております。</p>

事務局

次に令和6年度でございますが、中間とりまとめを踏まえまして、青山クラブ・桜松館の建物活用の方向性やエリアデザインのとりまとめを行っていきたいと考えております。

会議のペースは、令和5年度と同様に、概ね2ヶ月に1回程度で、(令和6年)8月頃に開催する第8回会議において、エリアデザイン案のとりまとめを行い、市議会に報告したいと考えております。その報告を踏まえ、令和6年12月頃には最終となる会議を行い、エリアデザインをとりまとめ、有識者会議としての成果を公表できればと考えております。

なお、資料右下、点線囲みに記載しておりますが、入船山記念館、美術館の具体的な整備内容につきましては、本有識者会議において検討された地区全体のコンセプトや各施設の在り方との整合を図りながら、「入船山記念館運営審議会」及び「美術館リニューアル準備委員会(仮称)」において、引き続き検討を進めていくこととし、これらの会議での検討内容につきましては、本有識者会議へのフィードバックを行っていきたいと考えております。

次に、資料3-2をご覧ください。資料3-1でご説明したスケジュールについて、タスクテーブルという形で落とし込んでおります。

検討項目として、表の左から地区全体、エリアデザイン、各4施設の検討項目、取りまとめ・公表に分類をしており、表の上から開催回ごとに検討していきたい事項を丸印で、確認・決定していきたい事項を星印で記載しております。会議の進捗管理に活用していきたいと考えております。

本日の会議で申し上げますと、地区全体に関しましては、現状と課題の認識共有、必要と考えられる機能についての意見交換、各施設に関しましては、現状と課題の認識共有を、検討項目として記載しております。

なお、これら資料3-1、3-2でお示ししておりますスケジュールや開催回ごとの検討内容などにつきましては、現時点で想定しているものでございまして、今後の検討状況に応じまして、適宜見直しを図って参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

田中座長

ありがとうございます。

ただいま、事務局の方より説明がございましたとおり、2年間で進めていく計画となっております。

大きく分けると、前半部分となります今年度は、幸町地区の総合整備に向けた整備コンセプトについてとりまとめて、まずは中間報告を行うというところを目標としております。

一方、来年度は、中間とりまとめを踏まえた上で、地区内の各施設の活用の方向性について検討していくところを予定しております。

また、有識者会議では、タスクテーブルへも書かれていますが、先進地への視察も行いたいと思っております。視察先につきましては、これから決定していくということとしておりますので、委員の皆さまからの候補事例がございましたら、事務局宛にご提案いただければと思います。よろしくお願いいたします。

スケジュールにつきまして、何かご質問はありますでしょうか。

もし何かあれば、またご質問いただければと思います。

議題(2) 幸町地区内の各施設の現状と課題について

田中座長

続きまして、議題2に進みたいと思います。
幸町地区の各施設の現状と課題について、事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、幸町地区内の各施設の現状と課題について、ご説明いたしますので、資料4-1をご覧ください。

まず、1ページの方には、「幸町地区の概要」を記載しております。

幸町地区には、戦前は海軍の下士官兵集会所として、戦後は海上自衛隊の福利厚生施設として、多くの方に親しまれてきた青山クラブ・桜松館を始めとして、国の重要文化財である旧呉鎮守府司令長官官舎や、呉市の歴史資料を展示している歴史民俗資料館等がある呉市入船山記念館、呉市の芸術の拠点としての役割を担ってきた呉市立美術館があり、市民や観光客が歴史・文化・芸術に親しむことができる地区となっております。

1ページ中ほどからは、位置図として今回検討の対象となる、8つの建物をお示ししております。丸数字は、次ページの施設名と対応しております。

2ページをお願いいたします。「各施設の概要と現状・課題」でございます。

まず、①青山クラブにつきましては、先ほど地区の概要でもご説明いたしましたが、戦前は海軍の下士官兵集会所として、戦後は海上自衛隊の福利厚生施設として使用されてきた歴史がございます。一方で、建物が現在の耐震基準を満たしていないことや、施設の一部が土砂災害特別警戒区域内(レッドゾーン)に指定されており、対策を講じていく必要性がございます。

次に桜松館につきましては、戦前は、海軍の講堂として、戦後は海上自衛隊呉音楽隊の庁舎として、使用されてきた歴史がございます。一方で、これまでの調査結果において、建物が耐震基準を満たしていないことが確認されております。

続きまして、入船山記念館でございます。まず、旧呉鎮守府司令長官官舎は、平成4年から3年かけて解体と復原修理を実施し、平成10年に国の重要文化財に指定されております。

また、歴史民俗資料館、郷土館、2号館につきましては、建築・整備をしてから長期間が経過し、老朽化が進んでいることや、資料の収蔵スペース不足から、歴史や民俗などに関する資料が分散しているなどの課題がございます。

最後に、美術館につきましては、文化の発展に資するための施設として、美術品の収蔵・展示や教育普及活動に取り組んでおりますが、課題として、本館については、開館から40年が経過し、施設・設備が老朽化しており、「呉市公共施設に関する個別施設計画」において、令和14年度に建替えという方針が示されていること、屋根について耐震基準を満たしていないこと、収蔵・展示スペースが不足していること、展示室がある本館と収蔵庫がある別館が離れており、運用上の課題があること、本館の一部が土砂災害特別警戒区域内(レッドゾーン)にあることが挙げられます。

続きまして、資料4-2をお願いいたします。

こちらは、「土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域 区域図」でございます。図の下部に区域の説明を記載しております。黄色の部分が、土砂災害警

事務局

戒区域,いわゆるイエローゾーンでございまして,土砂災害による被害を防止・軽減するため,危険の周知・警戒避難体制の整備を行う区域でございます。

赤色部分が,土砂災害特別警戒区域,いわゆるレッドゾーンでございまして,建築物に損壊が生じ,住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると求められる区域として,イエローゾーンにおける事項に加え,特定の開発行為に対する許可制や建築物の構造規制などが行われる区域でございます。

区域図をご覧くださいますと,先ほど各施設の課題としてもご説明しましたが,検討する敷地や青山クラブ,桜松館,美術館本館の建物の一部が,レッドまたはイエローゾーンとして指定されておりまして,整備にあたっては,これらの条件も考慮した上で,対策を進めていく必要がございます。

説明は以上でございます。

田中座長

先ほど,議題(2)の幸町地区内の各施設の現状と課題について,資料のご説明がございましたが,何かご質問や意見等はございますか。

横山副座長

副座長という立場ではございますけれども,美術館の状況について,認識を共有していただきたいので,発言させていただきます。

実は,昨年40周年ということだったのですが,日本の多くの美術館は,大体,開館30年~40年の間にリニューアル若しくは建て直しを行っています。

ちなみに,広島県立美術館の旧館が1968年に出来て,新館ができたのは30年後です。それから,広島市の現代美術館は,ついこの間リニューアルしましたけど,開館から30年くらい経っています。

建築分野の方はご承知かと思いますが,要は,(呉市立美術館が)令和14年での建て替えという方針が示されているということはあるのですが,これはいわゆる躯体が持つかどうかという話であって,美術館が一番大事なものは,空調の問題です。

と言うのは,美術館に限らず,文化財を保存しているあるいは展示しているというところは,空調がきめ細かに整備・運用されます。ちなみに,他の美術館から作品を貸与する際は,温度・湿度の変化のデータを求められます。

昨年の特別展ですけれども,国立近代美術館から,2点オファーしたのですが,1点の日本画は借りられませんでした。

その辺の一番ハードな面で,文化財保護の観点というのが,なかなか行政的には理解されないところがありまして,美術館は,すぐにデザインとか展示室とかという話になりますけれども,実は一番大事なものはその部分だという,そういった観点からすると,かなり危ない状態であると。

これは,前に所属しておりました長野県の信濃美術館ですけれども,ここはもっとひどくて,開館50年でやっと新館ができましたけれども,要は,空調が人間のための空調では無くて,作品のための空調ですから,そこをお間違いないようにしていただきたいのですが,例えば,具体的にいいますと,(呉市立美術館には)今空調が2基ありまして,1基はバックアップですけれども,昨年の3月に駄目になりまして,急遽,文化スポーツ部と協議をして,1基なんとか回復して今があると。つまり,バックアップが無いのです。

こういう状況ですので,館長の立場としては,今すぐにでも,施設のことを真剣に考えていただきたいというのが本音です。

<p>横山副座長</p> <p>田中座長</p> <p>横山副座長</p> <p>田中座長</p>	<p>運用としましては、もし今後、令和 14 年までに空調が機能しなくなる状況があれば、即休館という措置も取らざるを得ない。あるいは、彫刻とか工芸とか、環境の変化に耐えやすいものの展示に替えざるを得ないという状況がございます。</p> <p>美術館施設というのは、なかなか高度で専門的な施設ですので、単なる展示スペースではないとうところを共有していただきたいと思います。</p> <p>美術館の立場から、大変重要な課題をご説明いただいたかと思います。1 点伺いたいのですが、空調がネックということなのでしょうか。</p> <p>例えば、重要文化財ですとかを借りようとする、施設が安全かどうかというチェックが入ります。さらに、消防の査察とかもあるのですが、要は作品を置く環境に変化がないかどうかというところ。湿度は 55% プラスマイナス 5% というところが基準になっているのですが、それに 24 時間空調であるとかいろんな条件があります。</p> <p>それがどうしても出来ない場合は、特別な屋外スペースをつくることはあるのですけれども、先ほど申しましたように、日本の多くの美術館施設は、30 年～40 年の間に、改築ないし新築をしている背景には、空調の問題が根本にあります。あと使い勝手の問題もあります。</p> <p>ご承知のように、例えば、広島現代美術館の工事期間は、2 年間以上かかるわけですね。そこを考えると、長期的な視点で進めていかないといけないということです。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>皆さま、ご認識いただければと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>そのほか、議題(2)に関して、何かご質問はございますか。</p> <p>このあと、皆さんには、ご発言をいただきたいと思っておりますので、次に入りたいと思います。</p>
<p>議題(3) 現地視察を通した各委員の意見及び質問</p>	
<p>田中座長</p> <p>小野委員</p>	<p>続きまして、議題(3)、今の説明も踏まえてお話いただければと思います。先日、現地視察を行いました。</p> <p>それを通した、各委員の皆さまのご意見とかご質問をお伺いできればと思っております。</p> <p>ちなみに、議題(4)の方では、課題と整備の方向性についてご意見をいただけたらと思っております。</p> <p>まず、議題(3)の現地視察を通して感じられたことを、それぞれ委員の方々からお伺いできたらと思います。</p> <p>それでは、順にお願いしたいと思います。小野委員、お願いします。</p> <p>私は、まちづくり組織という形でここに呼ばれているのですけれども、入船山秋祭りというイベントの開催に携わったり、自分も美術館に行っているとい</p>

小野委員

うこともあって、エリアには日常的に行っているのですが、特段変化がということではないのですが、美術館については、先ほど横山館長に説明していただいた時に、レンガ造りの素敵なイメージという風に見ていたのですが、所蔵作品を管理するという意味では、本当に使いにくい施設であるというのは非常に問題であると思いました。

(美術館が) 去年 40 周年ということで、美術館が出来てから、呉に住んでいるので、美術館がこのまちにあることを本当に良かったと思っています。子供の時から美術館に行っていたので、私の成長にすごく影響を与えたと思っています。文化施設がここにあることは良かったと思いつつも、今ある問題については改善しないといけない、むしろこれから次世代の子供たちが美術作品をこの町で享受できなくなるということが問題かなと思います。

桜松館については、何度も入らせていただいていたのですが、青山クラブは、平成 27 年に、まだ自衛隊の所有であった時に一度見学させていただいて以降、入っていませんでした。

今回改めて入らせてもらって、以前入った時は曇っていて暗いイメージだったのですが、今回は、晴れていた日に入ってみると、電気をつけなくても、2 階、3 階は非常に明るかったりして、屋上に上がってみると灰ヶ峰などの山の景色から海まで、呉市街地が見渡せる状況を改めて確認できました。

本当に、この景色を市民が共有できる日が訪れると良いと感じたところです。

感想としては以上になります。

田中座長

ありがとうございます。続いて、加茂委員お願いします。

加茂委員

青山クラブ、桜松館についてコメントさせていただきます。

私は、自衛隊に入った時は、(両施設は) 自衛隊の所有であったので、建物の中に入ってもおかしくないのですが、今回初めて建物内に入らせていただきました。

中に入ってみて思ったのは、自衛隊施設は古い施設が多いので、旧海軍から使っていた施設をこれまでも各地で見ているのですが、非常に懐かしく思いました。

一時期、連邦軍、オーストラリア軍などが接收して使われてきてはいるのですが、自衛隊所有になってからの仕様と言いますか、武道場ですとか、宿泊施設であるとか、懐かしく思いました。

桜松館のステージですが、旧海軍時代からのエンブレムがありましたけれども、そういったところも大切にしていきたいなと感じたところです。

田中座長

河崎委員、お願いします。

河崎委員

入船山秋祭り実行委員の河崎です。

入船山秋祭りをやらせていただいているのですが、これを始めたきっかけというのが、YWCA で初めてイベントを行った時に、YWCA と入船山記念館、美術館、青山クラブが文化的なゾーンとして、市民が集う場所になればいいなと思い、それから入船山夏祭りをさせていただきました。

河崎委員

市長のコメントにもあったのですが、歴史の部分をもっと掘り下げて、もともと亀山神社があったということで、レッドゾーンもあるのですが、山なのですよね。入船山って、ちょっとした森のように見えるのですが、実は山なので、そういった特性も活かした、例えば、私が見てみたい景色として、入船山記念館の長官官舎の縁側から当時の長官が見た景色、今は見えないのですがそういったものも見たいなと思います。青山クラブの屋上でもいいのですが、見てみたいなど。

あと、資料には書かれていないのですが、眼鏡橋が道路の下に暗きよの状態に残っているの、どうにかして市民の方々に見てもらいたいなど。

先日、YWCAに見学に行った際に、YWCAの方にお話をお聞きしたのですが、YWCAの前に川が流れており、川底が石畳なのですが、砂落としという、もともと眼鏡橋が出来たきっかけは、呉湾に砂が流れ出ないように砂をせき止めるためであると言われていたのですが、その砂をせき止める砂落としというものも見られるので、こういった施設も市民に見ていただいて、この地域にもっと興味を持っていただきたいなと思います。

田中座長

下倉委員、お願いします。

下倉委員

結構長く呉で暮らして、戦争というものとすごく近いと感じていました。

現地視察に行って、新原市長も言われていたように、歴代の国際的なやりとりをした有名な人が関わっていることや、エポックがたくさんあり、その中で、呉市が広島市とほぼ同等に平和を訴えていかないといけないと感じました。

立地もすごく良くて、観光客は大和ミュージアムをまず見ますが、そのあとに、呉市立美術館であるとか幸町地区に連れ込むというのをなんとかしたいと思います。行くところはいっぱいあります。長迫公園にも行ってみたいですし、製鉄工場も見てほしいし、歴史の見える丘公園からJMUの船を造っている風景も見てもらいたい。そういったところを何とか発信していければいいなと思いました。

大きな課題というのは、開けていないということなんですよね。

美術館通りもランニングで通ったりしていたのですけれども、何があるか分からなくて、全然開けてないんですね。

今の美術館って、金沢の21世紀美術館であるとか、八戸美術館であるとか、開けているんですよ。パッと開けていけるようにしていく、これは建築的な課題なのかなと思います。

田中座長

松野委員、お願いします。

松野委員

建築、構造を専門としており、建物そのものをどのように使うのかという観点から視察をさせていただいておりました。

呉で生まれておりますので、子供の頃に何度か（青山クラブ、桜松館に）入れていただいた記憶があるのですが、何十年振りに入りました。

地下については、光が入らず暗いということもあったのですが、先ほど小野委員も言われていたように（2階、3階と）上に上がれば、照明がなくても十分に使えるなと感じました。

松野委員	<p>ただ、自分の体が大きくなったのもあるのですが、天井が低いとか、幅が狭いとかいろいろ感じながら、実際に使う場合は、手を加える必要性があるのだろうなと思いながら見ておりました。</p> <p>それと、思っていたより、想像していたよりはしっかりとした建物だなという印象を受けました。全棟建て直し、建て替えないといけないという感じではないのだろうと思いました。</p> <p>桜松館については、少し手当てをすれば使えるのではないかと思います。</p> <p>ただ、細かい計算は当然していないので、実際の見た目での感想になりますが、こういった辺りからのお話ができればいいなと思いました。</p>
田中座長	水田委員、お願いします。
水田委員	<p>私は、建築の歴史を研究しておりまして、前回の現地視察と事務局からの説明を聞きまして思ったのは、この地区が呉市にとって重要な地区であるというのは、委員の皆さんもご存じのとおりだと思うのですが、大変重層的な歴史が積み重なっているエリアなのかなと感じました。</p> <p>もともとの地には、亀山神社があり、鎮守の杜として存在していたところに明治時代に長官の官舎が建てられ、さらに下士官のクラブが造られ、昭和の初めに建て替えられ、さらに、戦後は、美術・文化ゾーンとして美術館が整備され、長官官舎が入船山記念館の一部として改築・改修されております。戦前は旧海軍に使われ、戦後は市民に解放されてきているように、長い歴史の中でいろいろなフェーズを重ねて現在に至っている、そういうエリアになるのかなと感じました。</p> <p>これから、何らかの新たな施設を造るのか、そこに新しいフェーズを積み重ねていくのかそういったことを感じました。</p>
田中座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、オンラインで参加いただいている、岡委員いかがでしょうか。</p>
岡委員	<p>非常に広大な敷地で、いろんなポテンシャル、可能性があると思いました。</p> <p>短い時間では、なかなか收拾しないようなコメントになるかもしれませんが、雑感ということで、いろいろお話できればと思います。</p> <p>先ほども下倉委員からもご意見が出ていたのですが、同じ広島県内で事業を行っている者として、呉の印象としては、戦争というイメージが地域としてはつきまとっているのかなと思っていました。そうしたところで、市長からもあったように、そこは歴史の礎として大きな要素ではあるのですが、解釈としては、軍縮とか平和の象徴といったキーワードとして再発信されていくというところを市長としては強く望まれているという意味をみながら、素晴らしいと思いました。こういったものが、このプロジェクトの根幹、コンセプト、ベースになるキーワードとして残っているようになれば、本当にこの施設の再生というのが未来の呉を創っていくと思い、関われることを嬉しく感じました。</p> <p>みなさん、いろんな専門家の方々であると思うのですが、私としては、(委員の方々の中でも)どちらかという一番、商業、ビジネス寄りというか、消費者に近いところで仕事をしていると思います。</p>

岡委員

感想としては、端的に、非常に気持ちの良いエリアだなと思いました。現代の都市計画であったり、現在の土地の権利関係の中で起きる開発、活動では、絶対にこの規模感の土地、公共的な空間をゼロから造ろうと思っても造れるものでもないで、上手く、規模感と海と山との間の、ある程度傾斜のかかった土地で、大通りから丘の上にかかっているところに、並木道があって、風がある程度丘の上から降りてきていて、木漏れ日が差しているといった、ただただ商業的に何か開発をしようとかするときには、もちろんその歴史であるとか、どういう地域であるとか非常に大事なんですけど、それ以上にまずは、日の良い場所なのか、気持ちの良い場所なのかといった、人間の本能的、直感的な部分を大切にしていって、そうすると高低差とか土地全体の規模感であるとか、日の入りやすさであるとか、そういう側面が気持ちの良い場所であるというに至りました。

あまりにも施設が大きいので、一つのコンセプト、一つの用途で各建物の活用を決めていくのは非常に難しいと思うので、おのずと、全体としては、宿泊があり、商業があり、食べる場所があり、もしかしたら、映画館、シアターのような場所があったり、ひょっとしたら、福祉だったり、病院だったり、学校だったりっていうことも入っていく可能性があると思いました。

市長としては、インバウンド、海外の方々が観光として、宿泊として来てもらえるようなという思いがあったかと認識していますが、我々が瀬戸田で行っている活動も一緒なのですが、観光コンテンツを、従来型の大型バスで乗り付けてわかりやすく何か一つ観光というより、一番の観光コンテンツは、その場所にプライドを持っている市民、老若男女が、元気よく施設内で楽しんでいる姿であったり、語り合ったりする姿であったり、飲み食いしている姿であったりというのが、一番映像性のある魅力的なコンテンツであると思います。

この広い場所を見た時に、観光客にいかに来てもらうかという視点よりは、私がこれから考えていきたいのは、20万人都市である呉市の規模は、これまでに関わってきている地域の中でも比較的大きい都市であり、地元の方々もかなりの人数がいて、そういった方々が呉に何の誇りを持ち、普段どこで遊んで、どこにお金を落としていて、周辺のどの地域に行っているのかといったことが分かってこない、この場所に、世界から、日本から人が来てくれるという風になった時に、やはり地元の方々が誇りを持って、楽しんで元気よく生活をしている姿を見せるといった視点も学んでいかないと、調べていかないとはいえなかったと思います。

世界から呉に注目してもらうという視点でみたときには、呉単発を目がけてということは少ないと思うので、どういうルートの中に組み込まれていくのかということと、その前後の予定であったり、前後で行ける予定であったりというところを比較した時に、呉として何を提供しようとしているのかといった目線も大事なところであると思っています。

田中座長

オンラインの戸高委員、お願いできますでしょうか。

戸高委員

大和ミュージアムと一緒に入船山記念館を見たときに、入船山記念館をどのようにすれば良いのかをよく考えるんですね。

大和ミュージアムは、いわゆる、歴史を伝える施設なんですね。

一方、入船山記念館、長官官舎というのは、歴史を伝えられる施設なんですね。だから、実物であり、本物であり、当時のままの環境が残っているという本当に貴重な、呉の歴史の一つのシンボルであるということで、こうした施設をどのような形で活用していくかを考えていかない。

今回の企画で、私が是非力を入れてやっていきたいと思うのは、青山クラブとの接点のところなのですが、先ほどの（資料の）ハザードマップ（土砂災害警戒区域図）で崖の危険な地図がありましたけど、前から考えていたのは、これは建築の人に考えていただかなければいけないのですが、あそこに安全な擁壁、腰止めの高いものを造るのであれば、そこにぴったりビルを部分的に建てていただくと、私が一番、入船山記念館でもったいないと思っているところは何かと言うと、非常に眺めが良くて雰囲気の良いのだけれども、坂道が長いのですよね。そうすると、お年の方とか、車椅子の方、歩行が困難な方が行きたくても行けない。でも、青山クラブ側のビルをセットとして考えていただくと、ビルの中から、入船山の頂上のレベルまでビルが建っていると、エレベーターでそういった方々が直接上がれるという形が作れるロケーションではないかと思う。

そういったものを考えたりして、これは提案ですが、専門の方に検討していただきたい。

それから、青山クラブ本体の方に関して、最初に見たとき、私は正直、建物として文化的にどうかと言うと、そんなにすごいものではないと感じていたため、その頃は、再開発をするのであれば、撤去でも良いと思っていた。だが、まちの人の意見を聞くと、住んでいる人の気持ち、歴史のソフトの部分、資料というよりもイメージとしての残すべき価値を持った場所ではないかと思っていますので、十分に検討の上、シンボリックな正面のアーチ（円形）になっている部分を残しつつ、背後に新しいビルを建てるとというのが現実的で検討に値するのではないかと思います。

昔は、オールオアナッシング（全てか無か）という考え方で、古い建物でも建て替えの時は全てを真っさらにして新築になるということが多かったのですが、歴史的な建造物はそうはいかない、少なくともイメージは残したいということで、例えば帝国ホテルでは、一部を明治村に移設したり、マッカーサー司令部のあった第一生命ビルも表面を残して裏に高層ビルが建つ、歌舞伎座も同じようにしていますし、呉の東京事務所の近くだと、九段下の旧軍人会館、二・二六事件になった場所ですが、あそこも検討の結果、表面を見ると、昔のままのビルなんですね。後ろに高層ビルが建っているのですが、極めて上手にレイアウトすると、外から見ると、昔の軍人会館がそのまま残されて、その隣に高層ビルが建っている、こういったビルは、東京都内にも、景観を残しつつ融合させているという事例であり、こういった施設を一度見学に行けば、参考になると思います。

そういった中で、先ほど（青山クラブ、桜松館の）屋上行ったら、港が見えたというご意見がありましたけど、鎮守府司令長官官舎は、どんどん木が生えまして、昔は長官官舎の上の方から港が見えたのですが、今はこんもりと生えて見えない、だから切り倒してしまえということには自然のものは残したいのでそうはいかない。そういったことも、青山クラブの活用検討の中で出ていくのではないかと思います。

戸高委員

あと、歴史見地という面では、昔を過ごしてきた記憶のある方々にヒアリングして、入船山の存在がまちの中でどういったものであったかということも並行して残していきたい。

実は私、昔、務めていた資料館の館長の奥さんは、司令長官であった日比野中将の娘さんだった。そのため、当時、呉の鎮守府司令長官の娘さんと仲が良かったと言って、周りのみんなが驚いていたことがあったのですが、私も個人的にそういった記憶がありますので、是非、全体として、そこだけではなく、まちのイメージの一つのシンボルという形、展示施設としての大和ミュージアムとの連携というものを良い形でとりたい。そして、どんな施設にしてもモダンであればいいと言うわけではないので、つくるのであれば、十分に考えたい。

現実には、先ほど、横山委員からお話があったように、例えば、博物館や美術館であったら展示環境など、今、大和ミュージアムのリニューアルのプランをどんどん進めています。一番現実的に難しいのは、空調設備の準備ができないこと。今、半導体の入手が難しいといった直接的な影響が出ている、空調のコンピューター設備が手に入らないといったところにまで影響を受けながら行っている。

将来的なことを考えると、例えば、美術館にそういった（展示）環境に影響するものを徹底的に持って行ってもらって、大和ミュージアムは中程度にして、極めて大和ミュージアムの企画展の重要なもので、今でも企画展を行う際には、真っ先に展示環境をチェックしますので、（そういった環境が問題で）お宅には貸せませんという場合には、美術館の方を利用するか、せつかくないので呉市の中の施設が上手に使い合ってやっていくというようなことを考えています。

とにかく、あれだけの美術館の立派な施設が単独の建物だけでなく、環境と一緒に残っているというところに重要性があるので、良い形でまとまっていくことを期待しているし、可能な限りお手伝いできればと思っています。

田中座長

みなさんのお話を伺って、副座長から何かございますか。

横山副座長

冒頭から、否定的な立場で話をさせていただきましたが、現状認識は言いましたので、例えば、美術館の開館時間は朝 10 時なのですが、入船山記念館は 9 時です。どういうことかと言うと、4 年前に私は呉市に来たのですけれども、その頃から市長もこの辺りの開発をということを言われていたのですが、今回、幸町地区全体を考える体制が出来てきたと言うことで、つまり美術館通りで河崎委員や小野委員がイベントを実施して、およそ 1 万人の方々が来ると言うことなのですが、例えば、美術館の学芸員は大和ミュージアムの学芸員を知らないという状況があったり、不思議に思ったのは、美術館は文化施設であって、大和ミュージアムは観光施設という位置付けだったり、未だに縦割りのなところに呉市は留まっているのかなと非常に疑問なところがあります。

海外に行くと、美術館、博物館行って観光して食べてっていうのはセットです。そういったもっと柔軟に考えて実行できるような、例えば、小野委員も岡委員も言われていましたが、青山クラブとしても色んな要素があって、単独の目的というの（訪れる人によって）違うのではないかと、もっともっと可能性はたくさんあるのではないかとというのが実感です。

田中座長

ありがとうございます。

それでは、第一印象を中心にお話いただいたかと思うのですが、少し言い残したことはありますか。

ないようでしたら、先ほどの皆さんからのお話を伺って、まとめというか、印象的だった内容について少しお話させていただけたらと思います。

まずは、この場所、エリアのポテンシャルを多くの委員の方が感じておられると思います。そのポテンシャルは3つ程あったのかなと思います。

1つは歴史の話です。この場所にいろんな方々が積み重ねて来られて、それを感じられる場所であるということが一つ。

2つ目は、自然環境ですね。山があって海があって景色が良いというポテンシャル。先ほども青山クラブの屋上に行く気持ちが良いというお話があったかと思いますが、その辺りが2つ目のポテンシャルで、行った時に気持ちが良いと感じられる、その場所が織り成す自然環境、地形を有しているというところでした。

もう一つは、立地の話。呉のまちを歩いた時に、あそこの立地、場所に、大和ミュージアムから人を引き込むようなポテンシャル、まちのイメージをつくるような役割を持つ。

そういったポテンシャルがある場所なのだというところを委員の皆さんの意見を伺いながら感じました。

それからもう一つ、先ほど横山副座長からもお話がありましたが、個々の施設単独で考えるのではなくて、エリア全体での相乗効果を生み出すことを考えた時に、全体最適と言いますか、全体で良くなる方向。それはもしかしたら、この場所だけでは無く、このまち全体を見た時にどういう役割を持たせたら良くなるのかといった視点も必要かと思います。

また、個別の施設に関して、まず美術館は、いろいろな課題があるとのお話をいただいたかなと思います。小野委員も言われていたように、実際に現地で伺っていると、なるほどと感じるところもありました。実は私も、数年前まで大学で建築設備を教えていまして、確かに設備って寿命が短いというところもありますので、そう考えると、そのような課題はあるのかなと思いました。

青山クラブに関しても、いくつかご意見をいただきましたが、その中で、景色が良いというご意見もありましたが、もう一つ、これは私も非常に印象に残ったのですが、空間がかなり大きいということがあるなと思いました。一つの用途というよりは、いろんな使い方の可能性を探ってみても良いのではないのかなと、少し工夫した使い方を模索しても良いのではないかと感じました。

入船山記念館につきましては、少しアイデアも出ましたが、美術館、青山クラブ、桜松館も含めて全体を見つつ、それぞれの施設のことを考えていくことが必要ではないかと思いました。

そういったところが、議題の(3)で出たご意見を伺いながら、まとめも含めてお話させていただきました。

議題(4) 幸町地区の課題と整備の方向性について

田中座長

続きまして、議題の(4)に入りたいと思います。

先ほどの話と重なる部分があるかと思うのですが、幸町地区の現在の課題、これから解決していくべき課題と整備の方向性について、話が重なっても良いかなと思いますので、ご意見をいただけたらと思います。

もう1周、改めて小野委員からお願いします。

小野委員

今、色んな方々からのお話を伺いながら、本当におもしろいなあと、この場に居られて良かったなと思いつつ聞かせていただいております。

下倉委員が仰っていたのですが、呉市が広島市と同等に平和を感じる必要があるというところなのですが、私が呉に戻ってきて8年目になるのですが、ひしひしとその点は思っていたところではありました。

広島市と比較して、呉市というのは旧軍港、そしてさらに言うと、それを利用しているまちであると、広島市とある意味、対局にあるような見方をされることも多い場所だと感じています。

大和ミュージアムが出来ると聞いた時は、実は、また大和なのかと思いましたが、呉に帰郷して、実際に大和ミュージアムを観た時に、そうでもないかと、ちゃんと思わせてもらえる施設があることに安心したというところです。

海軍って、呉はむき出しのまちだと思っています。造船所のドックを見れば、そこでは自衛隊の船が修繕・改修されているのが丸見えです。海を見れば潜水艦が浮かんでいる。そういった光景を目の当たりにする環境が、そこにあると考えた時、本来であれば、実はみんなが見えていないものが見ることができるこのまちで発信し得る、平和というものも意味があるのではないかと感じていました。

私は、青山クラブ、桜松館については、旧海軍施設であるということでそこまで興味を持っているというわけでは無く、先ほど少し安心したのは、いろいろな方が、単純に、ここは気持ちの良い場所だと仰っていたところで、私も最初に見学に入らせていただいていた時に、ここを残したいというよりも、ここを使わせて欲しい、市民がここに集う場を見たいというシンプルな思いでした。

時代というのも、その場所が持つ価値であると思っています。

このまちに帰ってきて、まち歩きの企画であったり、マップ作成をしている中で思っているのは、海軍があったことにより形成された市民の文化や歴史というものを、当時全国から人々が集まったことにより形成された市民が作った文化がもっともっと着目されても良い場所だと思っています。

そこには、旧海軍の歴史っていうのも入ってくるし、その歴史をひも解いていくと、入船山に、明治になって海軍が入ってくる前から、鎮守の杜として神社があったことに気づくという、すごい場所だなと思っています。

改めて皆様のご意見を聞いた上での感想なのですが、今までにも、平成27年度に、私が所属しているSYLと、もう一つNPO法人呉サポートセンターくれシェンドの方で、市民からの提案書というものを議会と呉市宛に出させていただいております。今でも議会ホームページの方で資料を読めますので、見ていただければと思うのですが、さらに平成30年度に、商工振興課さんと一緒

小野委員

にまちを考える、まちづくりとしてその場所を考えるにあたって、公園と青山クラブをどう活用するかということで提案書も書かせてもらっておりまして、商工振興課経由で呉市へ提出もさせていただいています。

そこで、どちらにも結局記載していたのですが、基本的にあまりにも大きいものなので、もちろん複合施設としての考え方で、そこが持っている価値が、既に接着点になってきた場所であるということなのですね。

亀山神社の時代はまだ分からないのですが、もしかしたら、市外から来られる場所であったかもしれません。

当時、海軍が入って来てからは、海軍と市民のちょうど狭間にあり、進駐軍が入ってきてからは、進駐軍と市民との狭間であり、進駐軍は11年も居るわけなので、色々な文化が生成されてきたのだと思います。

自衛隊においても、あそこの集会所で柔道したんだよね、レストランに食べに行ったんだよねという記憶を持っている方がいるということで、自衛隊と市民がそこで合流するような場所だった。

青山クラブは、呉集会所という自衛隊の方々は言われているので、集会所のような機能を残していけば良いと考えています。

宿泊、レストハウスのような場所もありましたし、大部屋もありましたし、という風に考えていくと、結局集会所としての機能を残していけば、市民がまずそこに集まっている状態があるところに、市外からの観光客の方々が楽しみに来る。また接着点になり得る場所であると信じています。

そういう風になっていただけたらなと思っています。

今後の整備の方向性について言うと、やはり市民の集会所であり、そこに観光客も来るといいう形が必要であると思っています。

また、今後の視察先について、私の中で、京都の旧立誠小学校が、結構なホテルと1階部分には高いテナントが入っているような場所で、改修する前も見っていたのですが、改修されて去年初めて行った時に、きれいになりすぎて面白くなくなっているのではないかという想像で行ったのですが、そんなことは無く、芝生には子供から大人までゴロゴロと転がっていて、広場のところは十分無料で楽しんでいる、けれども、テナントや宿泊といった商業もしっかりと成立していて、私の中で何よりも調べてみた時に大事だなと思ったのが、レストランとか一つのコンテンツだと思うのですが、コンセプトとしては、そのまちの人たちが文化拠点として使えるようにということが、7年間に及ぶ市民との話し合いの中で形成されていて、市民が管理しているホール、図書室のようなものが併設されているのですが、その上で商業施設のエリアもあるという形になっていて、共存しているなと感じました。

あと、行ったことが無いのですが、気になっているのが、愛媛県新居浜市のあかがねミュージアム（あかがね美術館）が気になっていて、美術館のみではない、文化複合施設という形になっていると思うのですが、この地も元々は工業のまちということで文化拠点をつくることになったと聞いています。

いろんな市民の方から、呉市がここを文化拠点として方向性を考えていくと言っていた時に、文化拠点は人を呼ばないと言う方がたくさんいらっしゃるのですよね。文化拠点を非常に狭義の意味で捉えていて、美術館とか博物館は人を呼ばないとはっきりと言う人達がたくさんいるのですが、ここが歴史と文化というものを、ちゃんと発信しようとするコンセプトがあつてそれに応じた

小野委員

コンテンツを持ってくるという話なので、その辺りを私も市民の1人として、あそこをどう使いたいか、どんな場所になって欲しいのかということ、この有識者会議が2年間続く中で、市民が勝手に会議をするくらい、この場所について考えていきたい。呉の人がこの場所をどう考えていくのか、どう使うイメージをしているのかという話をしていたと思うが、その場所に誇りを持つ人が使っていた場所ってというのが、価値を持っているという本当にそのとおりだと思います。その部分を市民でもっと考えたいなど、方向性を決めるにあたって、市民をちゃんと巻き込んでいくことの重要性、お金をかける価値があるのかを市民が本気で考えることをやりたいなど改めて思いました。

加茂委員

私は、呉地方総監部で広報を担当しています。昨年の10月に着任したのですが、何度か中学校、高校の平和学習で施設の見学をさせてほしいというお願いを受けました。

おそらく、広島の平和公園を見て、併せて大和ミュージアムを見に来るというようなツアーになっているのだと思います。

大和が造られた歴史、近代化の歴史を伝える大和ミュージアムと併せて修学旅行として見に来られるのだと思います。

さらには、過去、平和を考える際には軍事というものは避けて通れません。現在の安全保障を担っている海上自衛隊の基地があるということで、先ほど、平和を考えるというようなことがありましたが、広島とは別の視点から平和を考えるコンテンツが呉にはあると思いますので、そういった面からも活用していけるかなと思っております。

田中座長

引き続き、河崎委員、お願いします。

河崎委員

呉集会所という、未だに看板は残っていますが、今までも、旧海軍の時代も人が集まる場所だったということで、そんな風になっていければなと思います。

元々、呉は海軍がいた場所なので、文化度が高いと思います。それが、海軍が無くなって料亭が無くなって、日本舞踊だとか和楽器であるとかそういったものがだんだんと無くなってきているのですが、例えば美術館通りには、有名な方の作品があって、30年前くらいに整備されていると思うのですが、その時の作られた方の想いが途切れているのですよね。私は少しその部分が聞きたいと思います。どういった想いでその作品を作ったのかということを知りたい。

私は、あの場所が50年後にかっこいいと言える場所になってほしい、今いる子供たちが呉に生まれて良かった、誇れる場所になってほしいと想います。

文化度が高かったので、そういったところを繋いでいきたいです。例えば、今度お聞きしたいのですが、西洋音楽が入ってきたのは比較的早いのではないかと思います、その辺りの意味で音楽の聖地となってほしい。横須賀の方も同じようなことをされているのではないかと思いますので、掘り下げて、その部分をわかりやすく市民の方に伝えていただきたい。

あとは、岡委員も言われていたように、呉の人がまず使おうと、美術センターのような施設で、いろんな人たちとの交流ができる。そこに観光客の方々を訪れるようなまちになってほしいと思います。

田中座長

ありがとうございます。下倉委員お願いします。

下倉委員

この間、（静岡県）下田市に行ってきました。そこで黒船祭というイベントが金、土、日と3日間開催されていました。

そこで、びっくりしたのが、ペリーがやってきて開港したという1点で、3日間盛大に盛り上がっているのを見て、歴史ってすごく大事だと思いました。

呉のまちは、軍港として、戦争となって終戦を迎えて1回目のパンチを食らって、2回目は進駐軍が撤退した後に雇用減少などで食らって、最近、日本製鉄（呉製鉄所）の撤退でパンチを食らっているような状態なんですよ。

新原市長も仰ってましたけども、これまでに訪れた不況、恐慌を何度も突破してきているところなので、幸町地区の再生によって、もう一度、呉が活気のある場所になると良いと思っています。

人口減少の問題は外せないと思っていて、いかに子育て世代を呼び寄せるかというも、今回の検討のネック、課題になってくるのではないかと思います。

私は東京に住んでいたのですが、その時の友人が呉に遊びに来た時、ナイトツアーをするんですね。ナイトツアーと言うのは、美術館通りを通して、大きなグラウンド（市民広場）を見せて、病院（呉医療センター）を見せて、そこから陸橋に行ったりしています。お昼も、グラウンド（市民広場）でスポーツをされている人も多いですし、宮原高校の生徒も通学路として通っています。

若者にとって、あの辺りは、とどまる場所がないのかなと思っていて、青山クラブとかをとどまる場所に活用できると良いと思っています。

オタクも忘れてはいけないと思うのですよね。（呉市で）「艦これまつり」があった時に、すごい多くの人達が来たのですが、ちゃんと味方に付けないといけないと思いました。

田中座長

続いて、松野委員お願いします。

松野委員

呉市の20年後、30年後を考えても、この場所は中心となって輝かないといけない場所ではないかと思います。

そういった意味では、市民が集まれる場所でないといけないということを中心に考えていく必要があるということが1つ目のポイントになると感じます。

そこに、外部から人を呼び込まないといけない、広島と対極的なところもあるのですが、一緒に平和を訴えていかないといけないということを含めて考えると、広島から呉に来てもらう、広島の平和公園と大和ミュージアム、美術館も含めて観光していただけるルートを考えていく。

あとは、海軍のいたまちでもあったことも考えて上手く活用していく必要があるのではないかと思います。

例えば、広島平和公園から呉に来ようとする、JRの場合、結構やっかいなところにあり、1日で動くにはなかなかしんどいなと感じます。もし、船が使えれば、平和公園前の川から呉に来ることが出来れば、30分では厳しいかもしれませんが、1時間くらいあれば来ていただくことができるのではないかと思います。そういったことも複合的に考えて、（地区の）再整備が進めば良いなと思います。出来る、出来ないも含めて、考えていただければと思います。

田中座長

水田委員お願いします。

水田委員

先ほどの（議題（3）の）お話の続きになるのですが、青山クラブについて、中を拝見させていただいて、建物そのものは、大変重層的な歴史が詰まっているなと思いました。

元々、海軍の下士官集会所として建てられた当時のものもあれば、（戦後）進駐軍が来たときに改修されたもの、その後自衛隊が使用していた時に改修されているものもあるなど、様々な時代の積み重ねというものが、1つの建物の中に入っていると思いました。

他の委員の方々が仰っているように、私もあれだけの巨大な建物をこれからどうして行けば良いのかと、正直途方に暮れたところも感想として持っているのですが、ただ、このような言い方をするのは、おこがましいのかもしれませんが、歴史という視点はみなさん共通していると思うのですが、歴史は実物が残ってこそ、市民、特に歴史を知らない市民に対して、実物というのは見逃せないのではないかと思います。

建物そのもの、建物の構造に価値あるかどうかは別として、その建物で行われていた営みと言いますか、活動に価値があるって言うのは、この委員会の中で共有されていると思うのですが、だから建物のイメージだけ残せば良いという理論が展開されるのは、できれば避けていただけたらと思っております。

繰り返し、差し出がましいのですが、例えば、歌舞伎座とか第一生命館（東京・日比谷）のような、建物の表側を残して後ろ側に新しく建物を造るというようなことを早急に決めるのは、いかがかなと感じています。

例えば、（青山クラブ）奥のボーリングで楽しい思い出がある方もいれば、表側のカーブした外観に思い出がある方もいると思いますし、畳の部屋に思い出がある方もいると思います。そういった思い出の場所は、建物の至る所に残っているはずなので、建物全体をどのように残しながら検討していくかといったことも考えていただければと思います。

これは事務局へのお願いですが、今後、（先進地）視察先を決める際には、建物全体を保存している施設、建物の一部分を残している施設、両方を見たと委員の感想を伺うというような運営の仕方を是非お願いしたいと思っております。

建物の一部分だけ保存している施設を見て、「良かった。こんな感じで検討しよう。」というような方向で議論が進んでいかないかもしれませんが、そのようなことになるのではないかと感じております。以上です。

田中座長

ありがとうございます。それでは、オンラインの岡委員、お願いします。

岡委員

先ほどの話を踏襲すると、委員の皆さんのコメントの中で、先ほど私がお話したことを察していただいたり、この場所をとくにかく幸せに楽しんでいる老若男女というような地元の方々の景色をつくっていくというところに共感いただいている、非常に嬉しく思っています。

その一方で、改めて思っていたことなのですが、同時に閉じるということも大事なのではないかと考え始めていて、自分が小さな頃に遡ると、今のようにオープンで全てがシェアされて、いろんな人が自由に出入り出来る空間は少なく、どちらかと言えば、小さい子供は近づいてはいけない場所だったりとか、

岡委員

入ってはいけなさそうなお店があったりとか、そういった場所が世の中にもっとたくさんあった故に、闇があるから光があたるような場所が生まれてきたのかなと思うのと、せっかく広い傾斜が付いた敷地、青山クラブから入船山記念館までを考えると、きっとメイン通りがあるから路地が面白くなるように、闇があるから光があるように、施設というか、ブロック全体としては非常に開かれて、誰でも入れて、老若男女が楽しめる空間もあれば、敷居が高そうとか、ある条件がないと入れないとか、宿泊利用者でないと入れないとか、オープンとパブリック性とクローズの側面があったり、表面と裏面だったりするところを意識すると、全てがオープンにシェアされていく方向性の世の中になりつつあるので、まちの奥深さであったり、歴史を辿ったときにも、平和の象徴として打ち出していく時には、必ず闇を語らないといけないと思うので、施設構成としても、市民のための公共的な場と、呉のなかなか人が訪れることが出来ない敷居が高いような空間であったり、高級感がある場所であったり、そういう条件がないとオープンにされない場所みたいな場所があると、公共性と、特別な時でしか見られない、入れない場所が混在しているようなものが、プロジェクトの深さに繋がっていくのではないのかなと考えておりました。

それで言うと、表の青山クラブが非常にオープンで、上がっていくと、だんだん特別感を感じられる場所になっていくような構成で考えていけたら良いのかなと思いました。

戸高委員

今日、お話をお伺いして、本当にいろんなものが、要約、集約されているので、いろいろな使い方が考えられるのだなと改めて感じました。

こういったプロジェクトを進める時に一番大切なのはコンセプトで、どのような方向性のものをつくりたいか、何をつくりたいかというレベルでもう一度締めるところがあると、いろんな意見も行くべき道が明確になって煮詰まっていくこともあろうかと思えます。

こういった施設をつくる時には、個人の住宅とかそういったものではなく、公的なものなので、特に市内外の方にも来てもらいたいということであれば、その辺の魅力もやはり必要なもので、私は、博物館の設立を2施設携わりましたが、どこにも無いからつくるんだ、どこにも無いものをつくるんだという気持ちを常に持ってないと、似たようなものが、似たようなつくり方、似たようなコンセプトが、あそこにもここにもあるというものをつくってもつまらない。

ここにしかないものをつくるという気持ちを、どんな状況下でも持っていれば良いと思えます。

とくかく、呉の歴史の中であの地域は非常にポイントになっているので、十分議論を重ねながら、出来上がった時に、「ああ良かったね」というような結論に辿り着くようにしたいと思っています。以上です。

田中座長

ありがとうございます。

横山副座長

冒頭で、小野委員の方から、文化施設は人が集まらないという言葉がありましたが、その辺で、美術館の在り方について、もう一つ確認しておきたいと思えます。

美術館と言いますが、「呉市立美術館」なんですね。つまり、広島ひろし

横山副座長

ま美術館ではないということです。どういうことかと言うと、今の貸館の扱いですが、幼稚園から小学校、中学校、高校、大学まで、そして地元の作家さん、協会とかも使用する機能もあるということです。

それから、例えば、教育委員会の主催事業ですけれども、小学校4年生は、美術館を学びの場として見に来たりします。

そういった、実際に児童たちが訪れる場所であると。美術館はいらぬよという方に限っては、美術館を知らない方が多い。

それから、これは日本全体の公立美術館なのですが、例えば学校側が週休2日になる平成になってから言われるようになったのは、高齢化社会への対応と子供への対応だと。高齢化社会への対応を、今まさに美術館は果たしているではないかという観点もあるわけです。

つまり、河崎委員が仰っていましたが、今現在、グループで発表、展示する場所が無いということもありましたけれども、どうも呉市内では社会教育的な施設が乏しいというところもありますし、そういったことが意識されることが無いので、そんな予算組むのだったらやめてしまえという単純な論理がまかり通ってしまうところが非常に残念だと思います。

今度、美術館を建て直すにしてもリニューアルするにしても、やはり、子供達をどう受け入れるとか、高齢者に対してどのように対応していくかという観点は欠かせないのかなと思います。

文化施設は賑わいますよ。

小野委員

誤解を招かないように言うと、私ができるように思っているのではなくて、文化施設にするとすると、それは必要ないから観光施設にしろという議論をする方がいるので、そこへの理解を、この有識者会議とかで伝えていけたら良いなと本当に思っているところです。

横山副座長

それは、例えば、現在でも学校として見に来られますけれども、美術館に入る前に子供達を整列させて隊列を崩さないように歩かせるんですね。全然違うんですね。要は使い方を慣れていないということだと思うのです。

極端な言い方をしますが、ニューヨークにしてもパリにしても人が集まる一番賑やかなところに美術館あるいは文化施設があるので、特に日本の現代的な美術館が1960年代にたくさんできましたけど、みんな、(中心部から)ちょっと離れた公園とかにつくって、美術館というものを特化してしまったが故に生活から離れてしまった弊害があるのではないかと考えています。

だから、やりようだと思いますし、皆さんもパリに行かれたら、あるいはニューヨークに行かれたら考えると、つまり、逆に言うと、呉では、大和ミュージアムもそうですけど、文化施設が持つパワーに、まだまだ地元の人が気付いていないのだと思うのです。

気が付いて無いては、これから気が付く可能性があると考えていることができると思います。是非その辺も考慮していただきたいと思います。

田中座長

ありがとうございました。皆さまに一通りご意見をいただきました。

整備の方向性のお話で言えば、いくつか柱となるお話があったかと思っています。

1つは、平和というお話です。

<p>田中座長</p>	<p>広島市とは違った平和の発信の仕方があるのではなかろうかというお話があったかと思います。それは、戦争を身近で感じる施設がある呉ならではの軍事と一体となった平和のお話とか、そういった部分を発信していくことが一つの柱としてなっているのではないかと思います。</p> <p>また、それとリンクしていきますが、歴史というのが2つ目のキーワードとして上がってきたかなと思います。</p> <p>その歴史というのは、本物が必要なのではなかろうかと、実際のものとしての本物が必要ではなかろうかというご指摘もいただきました。</p> <p>また、“そこにしかない”というものにも繋がっていくのかなと思います。</p> <p>歴史の上に、さらに今回レイヤーを加えていくことになろうかと思うのですが、エリアとしての一つの考え方として、人が集まる場所、市民の方々がとどまる場所、そういったところが方向性としてある文化施設が一つのレイヤーとして加わるのではないかと思います。</p> <p>それが市民の方々が集まることで、シビックプライドというか、先ほど岡委員が仰っていただいていた観光のコンテンツになっていく、相乗的な効果というものがあるのではないかと思います。</p> <p>今後考えていかなければならない、次回の会議以降のお話となりますが、機能の話として、開くのか開かないのか、どこを開いてどこを開かないのか、そういうようなところを考えることが課題としてあるのかなと感じました。</p> <p>また、課題としては、人口が減っている中で、その部分も考えていく必要があるのではなかろうかということもありました。</p> <p>あと、美術館の話にもなりますが、せつくなので、新しい在り方、新美術館と言いますか、呉のようなまちの文化施設の在り方を考えて行く上で、良い機会になるのではないかと思います。</p> <p>というようなことを考えていました。</p> <p>みなさんに意見を伺ったのですが、方向性の話として、私の印象としては、そんなに大きくベクトルは違わないのかなと思いました。細かいところではいろいろあるかと思いますが、大きなベクトルはあまり変わらないのかなと思ったのと、そこから一步進む機能のことを次回お話できたらなと思います。</p>
--------------------	---

議題(5) 幸町地区に必要と考えられる機能について

<p>田中座長</p>	<p>幸町地区に必要と考えられる機能についてですが、この議題につきまして、今お話しましたように、第2回の会議で議論を深めていきたいと思っています。</p> <p>これに関する参考資料として、本日お配りしております、資料5「青山クラブ・桜松館に関するニーズ調査」について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料5につきましては、青山クラブ及び桜松館の活用について、令和元年度に実施したニーズ調査の結果でございます。</p> <p>本資料は、1ページ左上に米印(※)で記載しておりますとおり、令和2年6月に開催された呉市議会総務委員会において報告されたものでございます。</p> <p>まず、「1 目的」でございます。</p>

事務局

この調査では、青山クラブ及び桜松館の活用方法と、建物の使用範囲等について検討するため、市民、来訪者、観光・文化関連団体等、呉に来訪したことがない者に対して、アンケート調査等を行うとともに、事業の実現性を検討するために、民間事業者に対してアンケート調査及びヒアリングを実施したものでございます。

「2 調査対象、調査方法等」は説明を省略いたしますが、ご覧のとおりとなっております。

続いて2ページをお願いいたします。

「3 市民に対する調査結果」となっておりますが、こちらは、市民に対する調査を皮切りにしまして、21ページまでは、それぞれ調査対象者ごとに、主な調査結果を記載しております。

詳細について、説明は省略させていただきますので、内容については、適宜、ご確認いただければと思います。

次に、22ページをお願いいたします。「8 調査結果の総括」でございます。各調査結果をまとめたものとなります。

まず、「(1) 青山クラブ及び桜松館の活用の方向性について」でございます。

市民アンケートの結果では、「軍港都市として発展した呉の歴史に関連する観光コンテンツを提供する場所」「呉の歴史に関するコンテンツは既に十分あるため、別の観光・集客コンテンツで、幅広い集客を狙う場所」「市民生活に密接した娯楽やコンテンツを提供する場」「特に活用しなくてよい」という4つに意見が分かれました。

民間事業者においては、「軍港都市として発展した呉の歴史に関連する観光コンテンツを提供する場所」「呉の歴史に関するコンテンツにこだわらず、様々な観光・集客コンテンツで、幅広い集客を狙う場所」「市民生活に密接した娯楽やコンテンツを提供する場」の三つを複合した施設が望ましいという意見が最も多くありました。

また、各調査対象者からは、呉独自の歴史・文化を紹介する機能や観光客向けの宿泊施設や駐車場が必要だという意見や美術館別館として活用するという意見、大和ミュージアムとの連携を視野に入れて検討する必要があるという意見、施設の活用は入船山地区全体の課題であるといった意見がありました。

「(2) 青山クラブの活用方法について」でございます。

市民が魅力的と回答している活用方法の上位5項目は、「カフェ・喫茶店」「一般レストラン」「特産品販売所・お土産屋」「呉の歴史展示施設」「道の駅」となっております。

民間事業者が事業の実現性、運営の持続可能性があるという回答している活用方法は、「呉の歴史展示施設」「カフェ・喫茶店」「テーマ型ホテル」「一般レストラン」「ゲストハウス」となっています。

「(3) 桜松館の活用方法について」でございます。

市民が魅力的と回答している活用方法の上位5項目は、「音楽ホール」「カフェ・喫茶店」「イベントホール」「特産品販売所・お土産屋」「呉の歴史展示施設」となっております。

民間事業者が事業の実現性、運営の持続可能性があるという回答している活用方法は、「イベントホール」「カフェ・喫茶店」「一般レストラン」「劇場」「音

事務局

楽ホール」「結婚式場」「コンベンションホール」となっています。

続いて23ページをお願いいたします。

「(4) 民間事業者の意見と市民ニーズから検討した活用方法について」で
ございます。

下の図は、散布図で表したものでございまして、縦軸は「市民」、横軸は「事業者」となっています。枠線で囲んでいる部分が、民間事業者と市民のニーズが高いもので、青山クラブについては、「呉の歴史展示施設」「カフェ・喫茶店」「テーマ型ホテル」「一般レストラン」「ゲストハウス」「一般ホテル」が
ございます。

桜松館については、「イベントホール」「カフェ・喫茶店」「一般レストラン」「音楽ホール」が、それぞれの活用方法として、多くの意見がありました。

なお、青山クラブについて、宿泊施設は、運営形態は異なるものの、ニーズは高くなっておりませんが、民間事業者の意見では、「採算がとれるかは、事業者次第」、「呉市の社会情勢から需要は減る」といった意見があるとともに、ホテル開発・運営事業者からの回答でも「青山クラブにホテル参入することは難しい」といった意見があったことから、慎重に検討する必要があるものと考えられます。

また、活用に当たっては、芸術・文化エリアとして一体的に活用することや、老朽化している美術館の今後のあり方、大和ミュージアムとの連携も考慮し、活用方法を検討する必要があります。

次に24ページをご覧ください。

「(5) 青山クラブ及び桜松館の使用範囲について」でござい
ます。

使用範囲については、市民アンケートでは、「現在の建物を全部使用」「現在の建物一部使用(残り解体撤去)」「現在の建物の外観のみ使用」「現在の建物は全部解体して新築」の4つに意見が分かれています。

民間事業者への調査では、青山クラブの使用範囲について、「現在の建物を全部使用」と「現在の建物の一部使用」がそれぞれ8者の同数となっています。

また、自由意見において、市民からは、「市民の負担に対する懸念の声」も聞かれていることや、民間事業者からは、「建物のボリュームが大きいことや耐震改修費が膨大なことから、全部耐震改修するべきではない。コンテンツに合わせた必要なサイズ・部分だけを使用する」「順次、優先順位をつけて活用していく可能性はある。未活用の箇所があってもよい」「事業は段階的に拡大していく形でよい」といった意見がありました。

以上ご説明いたしましたように、活用方法に関するニーズは、「カフェ・喫茶店」「一般レストラン」「呉の歴史展示施設」「ホテル」「音楽ホール」など、市民から、観光客までの幅広い利用を目的としたものとなっており、建物の使用範囲についても、全部使用から全部解体まで、意見が分かれるものとなっております。

説明は、以上でございます。

田中座長

ありがとうございます。

先ほど委員の皆さまからいただいた意見ですとか、こうしたニーズ調査の結果を参考にしながら、次回、第2回の会議では、全体のコンセプトですとか機能について検討に入っていきたいと思
います。

<p>田中座長</p>	<p>本日の議題は以上となりますが、委員の皆さまから何かご意見はございますか。</p>
<p>小野委員</p>	<p>私がもう一つ参加している、呉市文化振興課が担当されている文化財保存活用地域計画の策定協議会というのがあります。</p> <p>その議題や話の内容は、この有識者会議と大変リンクするところがあると考えておりますので、策定協議会で進められている内容なども紹介できれば良いと思います。</p> <p>私自身、文化拠点は絶対にいると考えています。その一つの実績が大和ミュージアムであり、ここは、観光施設では無く、博物館の機能としてちゃんと成立し、それが徹底されているからこそ認められる場所になっているということは、呉市民が実感として知っている実績のある場所であると思っています。</p> <p>なので、美術館、博物館というものを大事にしていかなければ、そこから観光に繋がることを呉市民が感じられるようなものになっていければ良いと思います。</p>
<p>田中座長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかで検討している情報を上手くリンクさせていくことで、相乗効果に繋がると思いますので、よろしくお願いします。</p>

◇ その他意見

<p>田中座長</p>	<p>その他よろしいでしょうか。</p>
<p>水田委員</p>	<p>一度決まったことを蒸し返すような発言をして大変申し訳ないのですが、委員の互選で会議の座長に田中委員が就かれたのですが、この地区の話し合いは、呉市の将来を考える重要な話し合いであると思っています。</p> <p>呉で活躍をされている先生が座長に就かれて、ご意見を求めるのが、呉のことも詳しくご存じかと思えますし、呉でお仕事を持っている先生が座長に就かれるのが良いのではないかと思います。</p>
<p>横山副座長</p>	<p>副座長として発言をさせていただきます。</p> <p>水田委員の仰っていることは、別の観点からすると、今の呉を将来に渡ってどうしていくのかといった観点が必要なので、必ずしも呉に勤める、あるいは住んでいてということは必要ないと思います。</p> <p>むしろ、現状の呉を相対化する視点があつた方が、将来ビジョンが描けるのではないのでしょうか。</p> <p>つまり、あまりにも現状を知りすぎていると、今日も少し美術館のことを申しましたが、私が最初に呉に来て、全体を見てまず印象を持ったのが、30年間眠っていた美術館を何とか起こさないといけないということです。</p> <p>ということは、先ほども少し申しましたが、公立美術館の歩みは、いかに世の中の動きと共に歩んでいくかということの連続でして、景気が悪くなれば予算が削られ、人員は削られというようなことを乗り越えてきたわけですね。</p>

<p>横山副座長</p>	<p>平成に入ったことから、高齢化の問題とか学校, 児童の問題とかが真剣に取り上げられてきました。</p> <p>そういった流れからすると、呉の場合は少し鈍かったかなと思います。</p>
<p>水田委員</p>	<p>申し訳ありません。お言葉なのですが、今のご説明では承服致しかねます。</p> <p>呉の事情がそのようであれば、なおさらそこに親身になって考えていただける方が、リーダーシップを執っていただくことが、今後大事な時には、座長の判断で「ここはこうだ」と決めるケースも多々あるのではないかと思います。</p> <p>そういった時には、呉のまちに足を付けておられる方であれば、私もある程度従うと思うのですが。</p> <p>せっかく説明いただいたのですが、私の気持ちに対するお答えをいただけてなかったのかと思います。今の説明では、答えになっていないと思います。</p>
<p>小野委員</p>	<p>私が、これまでにいろいろと参加させていただいた有識者会議などで、座長が最終決定をするということはあまり無かったかなと思っております。</p> <p>どちらかと言うと、意見収集と全体像のまとめをされる方であると思っております。例えば、私自身、青山クラブのことをこのメンバーの中で相当長い間、考えてきた自負があります。</p> <p>こういう、熱量が高すぎる人間が、座長という、比較的冷静に場を見なければいけない立場に適しているとは思えません。</p> <p>他にも呉にいらっしゃる方がおられますが、既に当事者という立場からの発言になってしまうなと思っていて、私であれば少し引きたい感覚からすると、呉市にいらっしゃらない方であっても、むしろ、だからこそ座長をしやすいというところもあると思います。これは私の主観です。</p>
<p>水田委員</p>	<p>申し訳ありません。</p> <p>私が知っている委員会では、座長, 委員長が決めた事例もあります。</p> <p>例えば、酒蔵通りの委員会では、事務局と委員長で協議して決めてくださいということがありましたので、今後、そういったこともあるのではないかと考えています。是非、事務局も含めご検討いただけたらと思います。</p>
<p>田中座長</p>	<p>それでは、座長の件につきましては、引き続き検討ということにさせていただけたらと思います。</p>
<p>5 閉会</p>	
<p>田中座長</p>	<p>今回は、本日皆さまからいただいた意見をフィードバックして、地区のコンセプト検討に入っていきたいと思っております。</p> <p>最後に事務局の方からお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日は、有識者会議にご参加並びに長時間に渡る議論をいただきまして、本当にありがとうございました。</p> <p>最後の座長の件につきましては、事務局の方で検討いたします。</p>

<p>呉市長</p>	<p>今日のご発言、ありがとうございます。</p> <p>反省しないといけないのは、確かに、各部が文化と産業とで縦割りになっており、入船山記念館の学芸員と美術館の学芸員が話をしたこともない、お互いを知らないというところは、非常に反省しないといけない。</p> <p>小野委員が言われたように、今の文化財の計画を作っているのと両方行っています、お互いにその情報を交換していくことが良いのではないかと。</p> <p>私も市役所の職員から遅れて、まだ6年です。みなさんは20年とか30年とかやっている、ややそういう意味で、まだ外から見ている感覚があるので、反省しなければいけないところはいっぱいあると思いますので、この有識者会議は、まさにその大きな機会になると思います。</p> <p>皆さんからそういったご意見も、もっと言っていただきたいですし、また、市民の皆さまにいろんなことを、今の時点では無くて、30年後、50年後を見据えて進めていかななくてはいけないので、皆さんから、将来から見た現在の視点で、市民の皆さまに対し提供する場として、この有識者会議があるとありがたいと思います。</p> <p>よろしくお願いします。今日はありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>最後に、第2回の開催につきまして、会議スケジュールにもお示ししておりますが、7月を予定しております。</p> <p>詳細な日時に関しましては、改めて委員の皆さまと調整をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>田中座長</p>	<p>以上で、本日の有識者会議は終了といたします。</p> <p>皆さま、どうもありがとうございました。</p>